

令和 6 年 6 月 17 日現在

機関番号：12301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2023

課題番号：20K10707

研究課題名(和文)慢性腎臓病患者の「聞き書き」に関するフィージビリティスタディ

研究課題名(英文) Feasibility study on the "life story book" of people with chronic kidney disease

研究代表者

岡 美智代 (OKA, Michiyo)

群馬大学・大学院保健学研究科・教授

研究者番号：10312729

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：【研究1】目的：慢性腎臓病(CKD)患者に対して聞き書きを実施しその影響を明らかにすること。聞き書きとは、看護師が患者の自分史を作成して冊子やカードをお渡しする介入である。方法：聞き書きを受けた28名の語りを再帰的テーマティック分析により分析した。結果：聞き書きの影響は「生きる勇気がわいた」などであった。【研究2】目的：看護師が実践した聞き書きにおけるフィージビリティについて明らかにすること。方法：聞き書き経験のある看護師10名にインタビューを行った。結果：実践に適した組織づくりが必要であることなどが明らかになった。

また、聞き書きで得られた患者の語りから、8つの事象も明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

CKD患者に対する聞き書きは、患者の生きる力を高めることや他者へのメッセージ性など、聞くこととは異なる影響があった。そのため、聞き書きはCKD患者の精神的支援に効果的だと言える。また、臨床で聞き書きを推進するためには、冊子型ではなく短時間でできるカード型聞き書きの推奨や、聞き書き看護チームの組織化などの工夫が必要である。本研究を機に聞き書き看護チームを組織化した病院もあるため、それらの施設と共に、聞き書きを効果的に進める方法を検討していきたい。聞き書き紹介のwebsite (https://oka.dept.health.gunma-u.ac.jp/?page_id=14) も開設した。

研究成果の概要(英文)：[Study 1] Objective: To clarify the impact of implementing "listening-and-writing" for people with chronic kidney disease. Listening-and-writing is an intervention in which nurses write up the patient's autobiography and provide them with a booklet or card. Method: The stories of 28 people who received listening-and-writing were analysed using reflexive thematic analysis. Results: The impact of listening-and-writing included "gaining the courage to live." [Study 2] Objective: To clarify the feasibility of listening-and-writing put into practice by nurses. Method: Interviews were conducted with 10 nurses who have experience with listening-and-writing. Results: It became clear that it is necessary to create an organisation suited to putting this into practice. Additionally, eight phenomena became clear from the patient stories obtained through listening-and-writing.

研究分野：慢性看護学

キーワード：聞き書き フィージビリティ 慢性腎臓病 プロトコール 再帰的テーマティック分析

1. 研究開始当初の背景

平成19年10月より厚生労働省は腎疾患対策に取り組んできたが、依然透析患者数の減少傾向には至っておらず、早期・継続受診のための諸対策が国策として掲げられている。慢性腎臓病(CKD)患者が継続受診できない一因として、「腎臓病である自分」という新しい自己像や自分概念を再構築できないことがある。自己概念の再構築ができなければ、今までの自己像通りの生活を送ってしまい、継続受診や食事管理などにもつながらない。CKDの継続受診のためには、病に対する思いや病いと付き合い方などを、患者自身が認識する必要があるが、そのための支援方法は明らかになっていない。

聞き書きでは、語り手の生活や考え方を伺い、歩んでこられた人生が浮かび上がるように文章にまとめ、冊子として語り手にお渡しする活動である。今までも申請者らは、聞き書き介入を行っており、聞き書き後の冊子を対象者が見て、自己像を再確認したという変化がみられている(岡ら, 2017)。しかし、これは事例レベルであり、聞き書きによる変化を明らかにするには至っていない。そこで以下のことを明らかにする研究を行った。

2. 研究の目的

本研究の目的は、以下の通りである。

【目的1】CKD患者への聞き書き介入による影響を明らかにすること。

【目的2】CKD患者への聞き書きを看護実践に取り入れ易くするフィージビリティ(実行可能性)について明らかにすること。

ここでの聞き書き介入とは、CKD患者である対象者に、病いと共に自分らしく生きる方法などについて語ってもらい、その語りを聞き手である看護師が冊子にするという、いわば自分史を作成してお渡しするものである。

3. 研究の方法

【目的1】について

◆研究参加者とその選定方針:

当初は非透析患者のみを参加者にする予定であったが COVID-19の影響により当初の予定通りには進まなかった。また、透析施設でも聞き書き実施の希望があり、既に透析を行っている患者も対象とすることになった。非透析患者だけに対する聞き書きの影響を明らかにすることはできなかったが、多くの参加者による聞き書き介入の効果を明らかにすることができた。

参加者は、慢性腎臓病重症度分類第3期以降の患者で、研究への参加を募るポスターを見て自ら研究への参加の意思を示した者、または声かけにより同意が得られた者を対象とした。なお、聞き書き冊子を読んでいただく必要があるため、視力障害がある者は対象外とした。

◆研究手順

同意が得られた参加者の属性(年齢、性別、主な既往歴、原疾患)を診療録から収集した。介入は、岡らが提唱する「じっくりEASEプログラム」を用いた介入¹⁾を、以下の手順に沿って実施した。

- (1)研究参加者への説明文書を用いた説明を行い、同意を得る
- (2)聞き書き介入を実施する
- (3)聞き書きの内容を聞き書き仮冊子にする
- (4)仮冊子を参加者にお渡しして、読んでいただき、冊子にタイトルをつけてもらう
- (5)仮冊子を読んだ感想を半構成的インタビューにて伺う
- (6)仮冊子の修正を行い、最終完成版を研究参加者へお渡しする(図1)



◆分析方法

上記手順(5)仮冊子を読んだ感想を、再帰的テーマ分析²⁾を使って分析した。テーマの生成は、「冊子を読んだ後の行動や感想」について抽出した。

◆倫理的配慮

本研究は「群馬大学 人を対象とする医学系研究倫理審査委員会」において承認を得た。

図1 今までに作成した聞き書き冊子

(写真掲載、参加者承諾済み)

【目的2】について

◆研究参加者とその選定方針

慢性疾患看護の研究室において、慢性疾患患者に対して聞き書き実施経験のある看護師を対象とした。なお、聞き書きの実施回数は問わなかった。

◆研究手順

データ収集は、慢性疾患患者に対する聞き書き実践経験のある看護師に対して、質問票への回答および半構造的インタビューを行った。インタビューは以下の質問項目に従い対面または ZOOM で実施した。研究参加者の概要に関する質問は以下のとおりである

本研究では、Bowen³⁾が提唱する、フィージビリティの特徴に関連した4つの重点分野について、参加者にインタビューを行った。4つの重点分野は次の通りである。受容性と需要(看護師の満足感、継続使用の意向)、実践と実用性(設定した対象者へのプラス/マイナスへの影響)、適合(新しい状況で同様の結果が得られる程度)、統合と拡張(組織の目標と文化への適合、組織へのプラス/マイナスの影響)。

◆分析方法

聞き書きにおけるフィージビリティの4つの重点分野について、再帰的テーマ分析²⁾を使って分析した。

◆倫理的配慮

本研究は「群馬大学 人を対象とする医学系研究倫理審査委員会」において承認を得た。

4. 研究成果

【目的1】について

最終的な参加者は、聞き書き介入を受けた28人のCKD患者であり、内訳は血液透析患者21名、非透析患者7名である。

聞き書きの患者への影響は、「自分の話が形になって嬉しい」「慢性腎臓病の人や他の人に自分の病気の経験を知ってもらえることができる」「生きる勇気が湧いた」であった。

聞き書きの患者への影響の結果から、CKD患者に対する聞き書き介入は、本人の話が形になるため聞くことだけに重点を置いた介入とは異なる価値があり、ピアラーニング効果や他の人へのメッセージ性があることが明らかになった。さらに聞き書き介入は、患者の回復力と生きる力を高めることに役立つことも明らかになった(Oka, et al, 2024)。

【目的2】について

聞き書きのフィージビリティの特徴としては、「受容性と需要」ではなく患者との充実したコミュニケーションの礎となる>、「実装と実用性」ではなく冊子やカードの読み返しが患者自身の自己肯定と治療のモチベーションにつながる><多忙な業務と実施に要する時間の長さのために聞き書き実施が難しい>、「適合」ではなく冊子型は患者の穏やかな最期と家族のグリーフケアにつながる>、「統合と拡張」ではなくチームにおける冊子の共有が患者に合わせた看護ケアの実施につながる><聞き書きは看護の力を発揮する機会として活用できる><聞き書き実践に適した組織づくりが必要である><隙間時間およびツールの活用を通じた時間効率のよいカード型の実践>という8つのテーマが明らかになった(Totsuka, Oka, 2024) (図2)。

これらのことから、聞き書きは看護の力を発揮する機会として活用できるなど、多くのメリットが明らかになったが、時間がかかるなどのデメリットも明らかになった。そのため今後の研究の推進方策としては、冊子型ではなく短時間でできるカード型聞き書きの推奨や、聞き書きに取り組む看護チームを組織化して看護師が共同で取り組むなどの工夫が必要であるといえる。また、聞き書きを看護チームで取り組んでいる病院もあるため、それらの施設と共に、聞き書きのフィージビリティを高める方法を検討していきたい。



図2 本研究で作成した聞き書きカード(写真掲載、参加者承諾済み)

【目的 1】【目的 2】以外の研究について

聞き書きで得られた、患者の語りから以下の 8 つの思いも明らかにすることができた。

1)CKD 患者の病への思い(吉田、岡ら、2021)、2)聞き書き介入による CKD 患者の病いへの付き合い方の変化(片桐、岡ら、2021)、3)「カード型聞き書き」を用いた介入による透析患者への影響(岡、小林ら、2021)、4)CKD 患者が抱える病気や治療・人生等における思いを含む病への思いに関する言葉の数量化(金子、岡ら、2022)、5)聞き書き後の思いに関する言葉の数量化(宮崎、岡ら、2022)、6)維持血液透析をしている患者が保存期に腎代替療法選択を提示された時の思い(定形、岡ら、2023)、7)血液透析患者が抱えるセルフケアに取り組む自分への思いのカード型聞き書き前後の変化(福田、岡ら、2023)、8)維持血液透析患者による導入時の自己開示の有無とその理由(佐藤、岡ら、2023)。

上記の研究の成果発表と推進のために、すでに「群馬大学大学院 岡研究室、聞き書き(じっくり EASE)」という website(https://oka.dept.health.gunma-u.ac.jp/?page_id=14)を開設している(図 3)。そこでは、「聞き書き」と「じっくり EASE(イーズ)プログラム」、「聞き書き」の効果、「聞き書き」の方法、聞き書きの実際、サンプル聞き書き、文献などを紹介している。今後は聞き書きの手順やよくある質問なども追加していきたい。

<引用文献>

1) 岡美智代, 齊藤詩織, 井手段幸樹 (2017). 「じっくり EASE(イーズ)プログラム」における「聞き書き」について—慢性疾患患者の語りを冊子やカードにする看護支援—. 日本慢性看護学会誌, 11(1): 34-38

2) Braun, V., & Clarke, V. (2021). Thematic Analysis, A practical guide, 292, London: SAGE Publications Ltd;1st edition

3) Bowen, D. J., Kreuter, M., Spring, B., Cofta-Woerpel, L., Linnan, L., Weiner, D., Bakken, S., Kaplan, C. P., Squiers, L., Fabrizio, C., & Fernandez, M. (2009). How we design feasibility studies. American journal of preventive medicine, 36(5), 452–457. <https://doi.org/10.1016/j.amepre.2009.02.002>



図 3 本研究によって開設した Website
「群馬大学大学院 岡研究室、聞き書き(じっくり EASE)」
https://oka.dept.health.gunma-u.ac.jp/?page_id=14

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 岡美智代, 石川純子, 上星浩子, 松本光寛, 高橋さつき, 伊藤美鈴	4. 巻 45
2. 論文標題 Virginia Braun and Victoria Clarkeによる再帰的テーマティック分析を中心としたテーマティック分析の概要と分析プロセス	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本看護研究学会雑誌	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Michiyo Oka, Haruka Yoshii, Mitsuhiro Matsumoto, Hiroki Matsui, Natsumi Shirato, Ichiro Koshiish	4. 巻 9
2. 論文標題 A Reflexive Thematic Analysis Concerning Highly Valued Food	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Int J Nurs Clin Pract	6. 最初と最後の頁 369
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15344/2394-4978/2022/369	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Michiyo OKA, Satsuki TAKAHASHI, Mitsuhiro MATSUMOTO	4. 巻 7
2. 論文標題 The Current Status of COVID-19 Dialysis Nursing in Japan: Includes "Listening and Writing"	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Nursing & Primary Care	6. 最初と最後の頁 1-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.33425/2639-9474.1233	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 岡美智代, 高橋さつき, 松本光寛	4. 巻 37
2. 論文標題 フィジビリティスタディ (実行可能性研究) を中心とした介入研究と行動科学	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本保健医療行動科学学会雑誌	6. 最初と最後の頁 7-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡美智代, 茂木英美子, 板谷真紀子, 松本光寛	4. 巻 571
2. 論文標題 慢性疾患患者さんの生きがいを共有しながら行う行動変容支援 - 「EASEプログラム」と「じっくりEASEプログラム」とは -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 看護のチカラ	6. 最初と最後の頁 32-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Michiyo Oka, Satsuki Takahashi, Mitsuhiro Matsumoto	4. 巻 7
2. 論文標題 Review of Feasibility Studies to Ensure Conducting the Proper Nursing Intervention Research	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Archives of Nursing and Health Care	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.23937/2469-5823/1510153	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 岡 美智代	4. 巻 14
2. 論文標題 慢性看護の楽しさを未来につなぐフィジビリティ研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本慢性看護学会誌	6. 最初と最後の頁 77~82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34523/jscicn.14.2_2_77	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡美智代, 堀越香	4. 巻 27
2. 論文標題 看護職にとってのセルフケアと統合医療	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 外来看護	6. 最初と最後の頁 82-85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡美智代	4. 巻 16
2. 論文標題 セルフケアと統合医療 - セルフケアの意味から考える -	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本統合医療学会誌	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 劔持貴史, 岡美智代	4. 巻 38
2. 論文標題 システマティックレビューとメタアナリシスの実施方法 メタアナリシスの経験を通して	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本保健医療行動科学会雑誌	6. 最初と最後の頁 60-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計28件 (うち招待講演 7件 / うち国際学会 6件)

1. 発表者名 戸塚亮太郎, 岡美智代
2. 発表標題 「聞き書き」と「My life、My story」に関するナラティブメディスンの視点からの文献的比較
3. 学会等名 第36回日本保健医療行動科学会学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 金子芽生, 岡美智代, 松本光寛, 高橋さつき, 宮崎香那, 常松花音, 吉田莉紗, 片桐舞花, 遠藤千波, 猪熊綾子, 戸塚亮太郎, 向井菜津実, 廣村桂樹
2. 発表標題 慢性腎臓病患者の病に対する思いの研究 - テキストマイニングによる分析 -
3. 学会等名 第69回北関東医学会総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 宮崎香那, 岡美智代, 松本光寛, 高橋さつき, 金子芽生, 常松花音, 吉田莉紗, 片桐舞花, 遠藤千波, 猪熊綾子, 戸塚亮太郎, 向井菜津実, 廣村桂樹
2. 発表標題 慢性腎臓病患者に対する聞き書き介入の影響
3. 学会等名 第69回北関東医学会総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 板谷真紀子, 岡美智代, 松本光寛, 戸塚亮太郎, 木村和美, 櫻井保子
2. 発表標題 慢性維持透析患者にケアを提供する看護職者における聞き書きの影響～「私が大切にしている看護」を聞き書き本にする取り組み～
3. 学会等名 日本腎不全看護学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Makiko Itaya, Michiyo Oka, Mitsuhiro Matsumoto, Kazumi Kimura, Yasuko Sakurai
2. 発表標題 "What I value in nursing": A focus on a nurse caring for maintenance dialysis patients
3. 学会等名 The 7th Asian Nephrology Nursing Symposium (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Ryotaro Totsuka, Michiyo Oka
2. 発表標題 Understanding of distress in people with end stage renal disease undergoing hemodialysis
3. 学会等名 The 7th Asian Nephrology Nursing Symposium (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Takashi Kenmochi, Michiyo Oka, Ayako Inokuma, Natsumi Shirato, Ryotaro Totsuka
2. 発表標題 Effectiveness of Educational Programs for Patients with Diabetic Kidney Disease : A Systematic Review.
3. 学会等名 The 7th Asian Nephrology Nursing Symposium (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岡美智代
2. 発表標題 セルフケアと統合医療 セルフケアの意味から考える
3. 学会等名 第26回日本統合医療学会学術大会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 上星浩子, 岡美智代, 松本光寛, 高橋さつき, 板谷真紀子, 石倉美穂子
2. 発表標題 ACP (アドバンス・ケア・プランニング) や意思決定を支える「聞き書き」体験
3. 学会等名 第26回日本統合医療学会学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岡美智代, 京田亜由美, 剣持貴史, 本井裕二, 松本光寛, 小林智美
2. 発表標題 ACP (アドバンス・ケア・プランニング) とセルフケア
3. 学会等名 第26回日本統合医療学会学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 向井菜津実, 岡美智代
2. 発表標題 「色紙型聞き書き」の介入の影響 1事例の実践報告
3. 学会等名 日本保健医療行動科学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 板谷真紀子, 岡美智代
2. 発表標題 慢性腎臓病患者による療養生活に関する聞き書きからの語り
3. 学会等名 日本透析医学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岡美智代, 上星浩子, 高橋さつき, 松本光寛
2. 発表標題 生活習慣病患者に対する「聞き書き」という看護介入
3. 学会等名 第47回日本看護研究学会 交流集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 片桐舞花, 岡美智代, 松本光寛, 高橋さつき, 吉田莉紗, 遠藤千波, 常松花音, 向井菜津実, 猪熊綾子, 廣村桂樹
2. 発表標題 慢性腎臓病患者に対する聞き書き介入前後での病いとの付き合い方の認識の変化
3. 学会等名 第68回北関東医学会総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 吉田莉紗, 岡美智代, 松本光寛, 高橋さつき, 片桐舞花, 遠藤千波, 常松花音, 向井菜津実, 猪熊綾子, 廣村桂樹
2. 発表標題 慢性腎臓病患者の語りから得られた病への思い
3. 学会等名 第68回北関東医学会総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岡美智代, 小林俊介, 金城妙子, 井手段幸樹, 高橋さつき, 松本光寛, 木村和美, 櫻井保子, 戸島規子, 安村幹央, 宮本克彦
2. 発表標題 カード型聞き書き介入による透析患者への影響
3. 学会等名 第68回北関東医学会総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岡美智代
2. 発表標題 「聞き書き」で深まる対象者と医療者の対話: 変えることよりわかること
3. 学会等名 日本保健医療行動科学会オンライントーク (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岡美智代
2. 発表標題 包括的腎臓リハビリテーションにおける医療連携: 看護の役割と看護のチカラ
3. 学会等名 第12回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岡 美智代
2. 発表標題 慢性看護の楽しさを未来につなぐフィジビリティ研究
3. 学会等名 第14回日本慢性看護学会学術集会 会長講演（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岡 美智代
2. 発表標題 「聞き書き」を通して対象者の語りを「触れる世界」にすること
3. 学会等名 第14回日本慢性看護学会学術集会 シンポジスト（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岡 美智代
2. 発表標題 腎不全患者のエンドオブライフケア
3. 学会等名 第6回日本エンドオブライフケア学会学術集会 指定講演（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 定形明香，岡美智代，松本光寛，齋藤真帆，佐藤萌衣，福田あい，劔持貴史，佐藤佳子，安村幹央，櫻井保子，木村和美
2. 発表標題 保存期腎不全時に腎代替療法選択を提示された時の思い - 血液透析を選択した人の語りから -
3. 学会等名 第70回 北関東医学会総会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 佐藤萌衣, 岡美智代, 松本光寛, 齋藤真帆, 定形明香, 福田あい, 剣持貴史, 佐藤佳子, 木村和美, 櫻井保子, 安村幹央
2. 発表標題 血液透析導入時の他者への自己開示の理由
3. 学会等名 第70回 北関東医学会総会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 福田あい, 岡美智代, 松本光寛, 齋藤真帆, 定形明香, 佐藤萌衣, 剣持貴史, 佐藤佳子, 木村和美, 櫻井保子, 安村幹央
2. 発表標題 血液透析患者のセルフケアに取り組む自身への思い: カード型聞き書き介入による変化
3. 学会等名 第70回 北関東医学会総会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 岡美智代
2. 発表標題 多職種で取り組むセルフケアのための統合医療
3. 学会等名 第27回日本統合医療学会学術大会 シンポジウム(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Michiyo Oka, Kana Miyazaki, Mitsuhiro Matsumoto, Satsuki Takahashi, Mei Kaneko, Kanon Uno, Risa Yoshida, Maika Katagiri, Chinami Endo, Ayako Inokuma, Ryotaro Totsuka, Natsumi Shirato, Keiju Hiromura
2. 発表標題 Effect of a "Listening and Writing" Intervention on People with Chronic Kidney Disease: A Qualitative Study
3. 学会等名 The 27th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS), The University of Hong Kong (HKU) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Ryotaro Totsuka, Michiyo Oka, Satsuki Takahashi, Mitsuhiro Matsumoto
2. 発表標題 Characterizing the Feasibility of “Listening and Wring” by Nurses for People with Chronic Illnesses: A Reflexive Thematc Analysis
3. 学会等名 The 27th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS), The University of Hong Kong (HKU) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Ryotaro Totsuka, Michiyo Oka
2. 発表標題 What Causes Diabetes Distress in People With Type 2 Diabetes Mellitus? A Thematic Synthesis
3. 学会等名 The 27th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS), The University of Hong Kong (HKU) (国際学会)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 一般社団法人日本ケアマネジメント学会	4. 発行年 2021年
2. 出版社 中央法規出版	5. 総ページ数 426
3. 書名 ケアマネジメント事典	

1. 著者名 岡美智代 (監修)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 照林社	5. 総ページ数 140
3. 書名 CKD (慢性腎臓病) 看護ケアガイド	

1. 著者名 岡美智代 (監修)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 ユーキャン 自由国民社	5. 総ページ数 240
3. 書名 検査値&数式バイブル	

1. 著者名 編集 岡美智代, 竹田徹朗, 鈴木和浩	4. 発行年 2024年
2. 出版社 南江堂	5. 総ページ数 276
3. 書名 看護学テキストNICE、病態・治療論7, 腎・泌尿器疾患 改訂第2版	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>群馬大学大学院 岡研究室 聞き書き (じっくりEASEイーズ) https://oka.dept.health.gunma-u.ac.jp/?page_id=14</p>

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	高橋 さつき (Satsuki Takahashi) (50412987)	群馬大学・大学院保健学研究科・准教授 (12301)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	松本 光寛 (Mitsuhiro Matsumoto) (00881559)	群馬大学・大学院保健学研究科・助教 (12301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関